

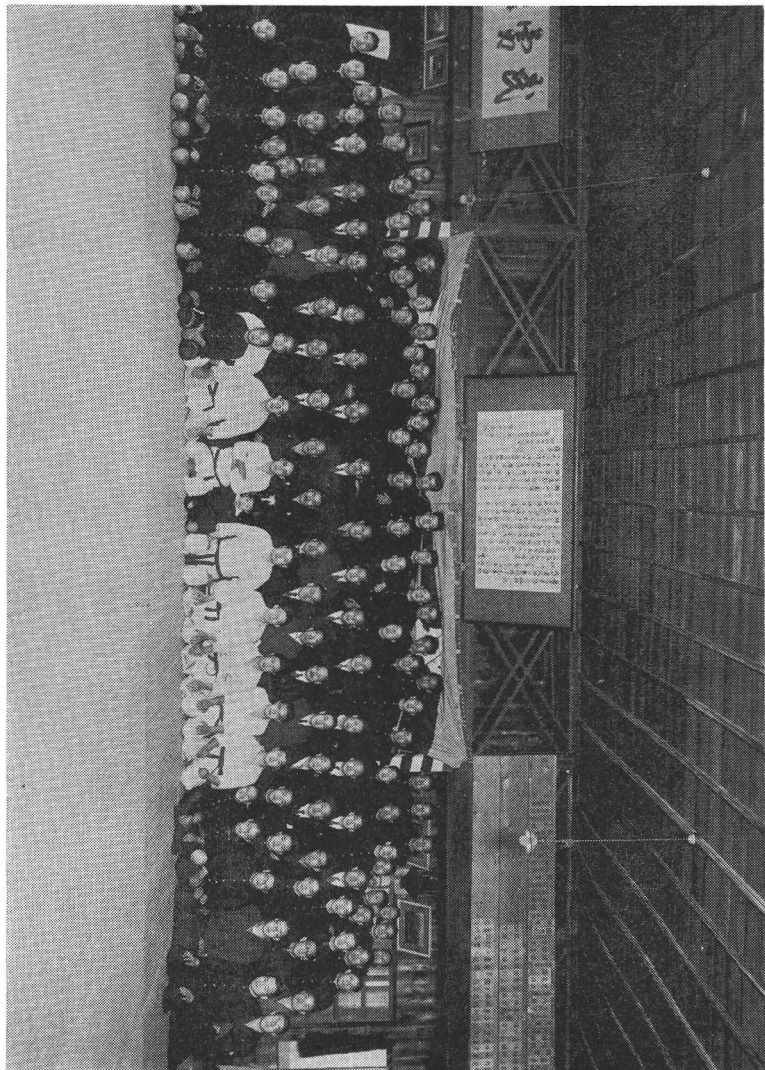
昭和十一年度

岡崎俊祐君をしのんで

長澤 金次郎

偶々、陸軍経理学校の同期生会に出席の為三年振りに上京した際、内海君より故岡崎君の事について思い出など書いてくれとお話であったので性来の筆不精もかえりみずお受けした。何しろ内海君とは予科の頃から同級でしかも去る大東亞戦では彼は近歩四第二機関銃の中隊長として、小生は近歩四第一大隊附主計将校として馬来半島を共に下りシンガポール作戦では共に重油燃えさかるジョホール水道を渡った仲で真に生死をともにした学友でしかも戦友でもある。彼からのたつての御依頼なればと拙文も省ず、光輝ある塾柔道部史の片隅へでもと思つてペンを採つた次第である。さて故岡崎君とは郷里福岡の中学修猷館時代から私より一年下であった。

修猷館は筑前黒田侯の藩校で今日でも九州切つての名門校で戦前は柔道も強く、福岡日々の大会では、第一回大会より数回続いて優勝し、又その後、塾に來た藤川恒夫君が大将の時も優勝した事がある。なくなつた飯塚国三郎先生も大正の初め頃数年修猷館で教鞭をとられた事もあつた。修猷館から塾の柔道部に学んだ先輩では箱田達磨、横田喜一郎、城崎栄之助等の諸氏。私の後にも岡崎俊祐、藤川恒夫、城島祐之助君が居り他の部にも沢山の卒業生を塾へ送っている。この様に地方の一中学校としては塾の柔道部と浅からぬ縁があつた様に思われる。故岡崎君もこの様な



昭和十一年卒業生送別大会記念

関係で彼の長兄岡崎茂助氏が早稲田大学柔道部の出身であるにかかわらず塾を希望したのではないかと思われる。

故岡崎君は慶応義塾大学経済学部卒業の後、金沢冬三郎先輩の推薦により大日本製糖に入社台湾の現業地にて勤務した。昭和十四年一月十日福岡歩兵第二十四連隊に入隊、検閲終了後当時ソ満東部国境方面に駐屯中の本隊に転属し東満の東寧に駐留し幹部候補生となり、陸軍歩兵少尉に任官と同時に歩兵第百二十四連隊の小隊長として南支方面に出征し幾多の作戦に参加、大平洋戦争勃発と共にボルネオ方面に出発し、ボルネオのミリー攻略の為に尖兵小隊長として小発（陸軍の小型発動艇）に乗りミリー河を遡航進撃中敵迫撃砲弾の直撃を受け散華した。

昭和十八年四月私が福岡に帰って彼の両親を訪ねた時、遺品として見せられたものは曲った軍刀、双眼鏡の片半分のみでいかに悲壮なる戦死であったかを物語っていた。これが彼の短かかったが華々しい一生であった。

中学時代の彼は、小学校六年の頃から通っていた玄洋社の道場明道館で稽古していた。中学でも放課後二三時間の稽古の後、夕食後又稽古を着を担いで三軒余りの道を歩いて明道館に行き、家に帰って寝るのは凡そ十時か十一時頃であった。私も同じ道場に通っていたが五年生の二期からは入学試験の為学校の練習も道場の稽古もやめるのだが、彼は毎日毎日稽古に稽古を重ねていた様だった。

毎日予習復習を怠っては到底学年中二十番の成績は維持出来ない、彼は毎日の烈しい練習をしてしかも成績が良いたので、何時勉強しているのか、不思議でならなかった、学業にしろ武道にしろよく頑張る人で人一倍負ずがいであつた。時に彼が調子の悪い時など私がたてつづけに投げた時もあったが、涙を流してくやしがつた事もあつた。全く負けん気の強い人であつた。その気性が彼の学業にあらわれたものと思う。

中学修猷館柔道部の目標は福日（福岡日々新聞）の大会である。初回以来連続優勝していたが、昭和になつてから優勝出来ず昭和五年度は岡崎を初めに二三人強いのがいるので今年こそと先輩等も張り切つて毎日々々若い先輩達

が四五人道場に現れては発破をかけられ放課後の練習は猛烈をきわめた。全くへとへとになるまでやらされた。彼の体は大きい方ではなかった。身長一米六十二位、体重も七〇斤にはなつてなかつたと思う。されど、足が短く扁平足で畳に足の裏全部がすいついた様に思えた。その体形は腰技には最適で、足腰も強くバネもあつたので彼の跳腰は実に見事であつた。

昭和五年六月戸畑市にある明治専門学校（現在北九州工業大学）主催の大会には私が大将、彼が副将として出場し、優勝した。その記念の写真は今も母校の道場に掲げてある。その年の福日大会は彼が大将私が副将で出場したが准決勝戦にて鹿兒島第一師範とあたり敗退した。

翌六年、七月の福日の大会には第一の優勝候補にあげられていたが優勝戦に於て東筑中学校と対戦し大将同士の決戦となつた。二回目の延長戦の時、敵将岩崎に跳腰の裏をとられて優勝を失した。私はすでに塾に入つていて帰郷し観戦していたがそのくやしさは今でも忘れない。翌日岡崎君は頭をつるつるにそつて来たのを思い出す。

彼が塾に入學してから初めて綱町道場に来た時である。私の横に坐つて神妙な顔をしていた。金ちゃん誰れと稽古すればよかとなと博多弁で言うので、最初に沖革作さんその次は中野先生に御願ひする様に言つた。お二人と稽古のあと「大した事はなかなあ」と言うので、「そんなら後日又稽古をお願いしてみろ、キリキリ舞させられるから」と言つた。その時岡崎は二段、沖先輩は三段ですぐ四段になつたと思ふ。

翌日又稽古を御願したところ彼はつくづく「ほんなこと立っているひまもなかつた」と感に堪えない様子でした。中野先生や沖先輩の塾柔道の真髓にふれたのでしよう。中野先生は「やっぱり西の弟子だなあ」と私に申されました。

西先生とは我々中学の柔道の先生で当時は六段でした。対満州との試合の際は小谷澄之六段と対戦され、つばめ

返し”で見事福岡県に勝利をもたらされ、九州の第一人者でした。どちらかと云うとごつい柔道で私も塾に入学した当初ヤワイ柔道、技を掛けると、もうそこにはいない柔道、掛けてもふわりといなされる柔道、その様な真の柔道には接した事はなかった。殊に塾の柔道は全くその本流の如きものであった。

彼は予科本一の間はよく道場にも通い、よく稽古した。或る冬、麻布の私の下宿から一緒に寒稽古に通った事がある。私は初の一週間は続けて通ったものだが二週目になると怠け心が出て朝起きるのがつらくよくさぼった。彼は二三回”もう時間はい”と博多弁で声をかける。私はたぬき眠りをしていると、しようがないなあ、とぶつぶつ云って寒い中を出掛けて行った。彼は二三回皆動した様に思う。又或る時一緒に銀座に出て時間も来ると彼は三田に帰る私は映画など観て稽古をさぼっていても彼は綱町で稽古に励んだ。天分がある上稽古熱心で長足の進歩をした。

昭和八年の夏休み帰省の途中四日市市の大矢知君の処に二三泊した事がある。大矢知君の母校四日市中学に二人で稽古に行った時岡崎は、有段者の中学生を十人掛けて得意の左右の跳腰、大外刈などで数分の内に投げてしまった。

昭和九年春の講道館紅白試合にて三段の上の方で七人を抜いて抜群即日四段に昇段した。当時紅白の抜群は免許料の四円がいらぬ。彼は今日はもうかったから夕食をおごると云って三田通りの大和屋でカツライスを御馳走して呉れた。

彼の柔道試合の中でなんと云っても華々しいのは新築なったばかりの水道橋講道館に於ける早慶對抗柔道試合であったと思う。大将として出場数人を降し、大将永光君と優勢の中に引分けた試合である。その戦績は別に詳しく載ると思うのでそれにゆずるとしてその華々しい活躍をめでて時の柔友会会長金沢冬三郎先輩から見事な日本刀を贈られたのを何時も誉れとし軍刀に仕込んで戦地に行ったが今は遺品となってしまった。

彼は本一の終り頃より麻布升谷町にあった東光書院と云う処に寄宿した。毎朝便所掃除炊事或いは黙想正坐などあ

り漢籍の講義等昭和初期より自由思想への反撥気風に満ち満ちた塾であった、時には鎌倉のお寺など参籠して自身を練えていた様である。

彼と最後に会ったのは昭和十六年六月頃かと思う。彼の部隊が作戦を終えて私の部隊と警備交替した南支広東省石竜であった、(香港との国境近い処) その交替期間が二三日あったので一夕支那料理店で広東料理を食べながら学生時代の事、軍隊に入ってからからの事を朝まで語りあかした。その中で自分の軍刀を示しながら「これが金沢会長から戴いた刀ばい」と得意満面の彼の笑顔が今でも目に浮ぶ。

若し彼が今日その生を保っていたら、さぞ国家社会に貢献する人物に成長したであらう。

中学、予科、大学と同じように進み道場で共に汗を流した彼が若くして散華した事はかえすがえすもおしまれてならない。只々冥福を祈るのみ。

三級の部

5 山崎門次 引分 松本善治郎

1 〇内海昭勝 背負投 鈴木康吉

2 内海 足弘 〇山崎泰

3 〇山崎泰 背負投 野原好三

4 〇山崎 合技 中沢信夫

5 山崎 引分 磯辺晃平

6 磯辺晃平 引分 笠原慶太郎

7 〇笠原慶太郎 小外刈 石井幸太郎

8 笠原 大外刈 〇篠原泰敬

二級の部

1 木村太郎 合技 〇中村弥二郎

2 中村弥二郎 跳巻 〇矢島正

3 矢島正 引分 大沢達夫

4 〇大沢達夫 引分 杉本健造

5 大沢 引分 渡辺徹夫

6 大沢 送襟絞 〇山岡三郎

7 山岡三郎 引分 石渡顕一

飯塚・中野両師範勤続祝賀並びに

卒業生送別大会

二月十一日

例年紀元節(建国記念日)に举行される。卒業生送別

紅白試合に兼ね、本年勤続三十年の飯塚先生と、同じく二十年の中野先生に対する報恩と祝賀の大会が綱町道場に於て行われた。式典には林塾長、板倉体育会長、浅井体育会理事を始め多数先輩の臨席の内に、今川敏夫幹事の祝詞に次て記念品が両師範に贈呈され、塾長以下の祝詞に於て飯塚先生の謝詞があった後、左記の祝賀並びに送別の紅白試合が行はれた。

卒業生送別紅白試合

紅

先鋒 〇赤松 栄

赤松 背負投 〇小山和雄

〇奥田直道 背負投 〇成宮誠一

奥田 合技 〇成宮

〇奥田 内股 〇成宮

山本 引分 成宮

仁村 引分 成宮

太田 引分 成宮

〇松本善治郎 釣込足 〇窪田羊三

〇松本 大腰 〇窪田

松本 体落 〇神浦滋太

〇笠原慶太郎 袈裟固 〇神浦

笠原 足弘 〇内海昭勝

〇大沢達夫 大外刈 内海

白

合技 先鋒 大野皓章

背負投 〇小山和雄

背負投 〇成宮誠一

合技 〇成宮

内股 〇成宮

引分 成宮

引分 成宮

釣込足 〇窪田羊三

大腰 〇窪田

体落 〇神浦滋太

袈裟固 〇神浦

足弘 〇内海昭勝

大外刈 内海

大將 中野 森藏 不戦
 祝賀、有段者紅白試合

石橋	石橋	石橋	鈴木	鈴木	菅原	和田	古武	佐藤	佐藤	川越	安西	高木	高木	大沢	内丸	内丸	笠原	先鋒	笠原
		正記		完	誠	德藏	寿夫				正憲	文雄	文雄	達夫			慶太郎	先鋒	慶太郎
引分	跳腰	小外刈	引分	大外刈	大外刈	引分	引分	引分	合技	跳腰	引分	引分	大外刈	腕固	縦四方	縦四方	大外刈	先鋒	大外刈
三井	峯岸	池田	渡辺	安田	安田	天野	仲西	山岡	中村	中村	福岳	佐藤	久木田	久木田	久木田	湯地	湯地	鈴木	鈴木
文男	文雄	龜夫	昌一	義也	義也		三郎	三郎	泰吉	泰吉				辰吉	辰吉	貞俊	貞俊		

守谷	木下	木下	木下	本間	本間	渡会	始良	羽鳥	三野	熊谷	鳥海	古屋	古屋	古屋	大將	大將	俣野	俣野	俣野
一郎	三郎	三郎	三郎	太郎	太郎	卓藏	源治	忠久	喜徳	又六郎	又六郎	幸三	幸三	幸三	清	清	清	清	清
内股	弘腰	背負投	背負投	袈裟固	袈裟固	裏投	引分	跳腰	引分	小内刈	内股	合技	合技	合技	体落	体落	内股	内股	内股
水之江	水之江	関	関	関	関	羽鳥	羽鳥	赤塚	赤塚	菅井	菅井	菅井	菅井	菅井	飛田	飛田	飛田	飛田	飛田
公英	公英	準	準	輝久	輝久	豊	豊	助	助	助	助	助	助	助	常吉	常吉	常吉	常吉	常吉

卒業生掛勝負(極技不明のため記載略す)

三段 北川正治(五人掛二勝)

三段 山本繁太郎(五人掛三勝)

四段 佐久間知三(羽鳥・久留・桑原・古武・内海・横田・大沢・菅井・近藤・小西・十人掛全勝、二十一分)

四段 今川敏夫(永野・羽鳥・西村・立脇・笹川・菅)

原・加藤・内海・横田・近藤・羽鳥

(忠)。十一人掛全勝、十四分三十秒)

普通部対高輪中学対抗試合 四月二十二日

普通部

大将 ○羽	副将 神浦輝久	太田三四郎	高木慶三郎	○高木慶三郎	榎正彦	白井仁	山崎泰	窪田三	○窪田三	滝沢貞彦	田中常司	外山文夫	満谷俊吉	○満谷俊吉	岸田睦夫	先鋒
引分	引分	引分	絞股	内股	引分	引分	絞股	引分	大内刈	払腰	引分	足払	足払	足払	引分	先鋒
池田	田村	豊島	○豊島	福広	田村	小川	○小川	吉野	石渡	○石渡	丸山	○丸山	丸山	千葉	山下	高輪中

進級月次試合

○羽鳥 釣込腰 副将 山口
 ○羽鳥 釣込腰 大将 窪田

四月二十四日

丙組の部

乙組の部

四級の部

7 山崎門次	6 仁村弘	5 谷村嘉一郎	4 山本嘉一郎	3 秋元榮三郎	2 白井仁	1 ○白井仁	7 溝口	6 赤松	5 孔	4 川内拓郎	3 ○川内拓郎	3 大島	2 武内安	1 木下一雄
大外刈	返技	引分	優勢	優勢	引分	釣込足	押込	引分	引分	押込	返技	引分	押込	引分
○榎崎正彦	○山崎門次	○仁村嘉一郎	○谷村嘉一郎	○山本嘉一郎	秋元榮三郎	成宮誠一	○奥田直道	溝口喜久男	赤松榮	○孔後重明	城後重明	大野皓章	○大島仁夫	武内安

三級の部

二級の部

新入部員歓迎紅白試合

四月

成年組
先鋒○茂木茂一

大外刈
先鋒

鈴木白

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
神浦	中沢	中沢	窪田	篠原	佐野	城後	○城後	野原	高木	松本	鈴木	石川
滋太	信夫	羊三	恭敬	繁	正明	足弘	引分	大内返	大外刈	足弘	足弘	足弘
○山崎	○神浦	磯辺	○中沢	窪田	○篠原	佐野	○城後	野原	○高木	○松本	○鈴木	○鈴木
泰	滋太	晃平	信夫	羊三	恭敬	昭勝	正明	好三	慶三郎	善次郎	善次郎	康吉

○松本	窪田	石川	慶田	蒲生	○蒲生	○蒲生	村中	太田	山本	中野	○中野	秋元	孔	○孔	川内	溝口	山賀	齋藤	猪原	茂木	○茂木	○茂木
善治郎	羊三	禧夫	耕造		哲也	孝次	三四郎	三郎	三郎	善正	善正	榮三郎	植	仁植	拓郎	喜久雄	了	恒雄	恒雄	木	木	木

大外刈	大内刈	引分	引分	内股	釣込腰	移腰	合技	引分	弘腰	合技	内股	引分	内股	袈裟固	袈裟固	引分	引分	引分	大外刈	大外刈	体落	体落
-----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	----	----	----	-----	-----	----	----

野原	野原	小野	成宮	○成宮	○山崎	○山崎	西原	○西原	○西原	仁村	谷村	谷村	○奥田	○奥田	赤松	小山	大島	○大島	○大島	武内	山口	山
好三	信一	一彦	誠一	正彦	門次	典	正典	弘	嘉一郎	直道	和	雄	仁夫	安	春男	安	安	安	安	安	安	安

大将	副将																								
近藤 漸	関 準	本間 太郎	木下	木下 三八郎	木下 三三郎	羽鳥 輝久	川越 一男	永野 祐正	渡辺 徹夫	渡辺 昌一	渡辺 昌一	篠原 恭敬	矢島 正	矢島 正	笠原 慶太郎	中沢 信夫	中沢 信夫	高木 慶三郎	松本 慶三郎						
大外刈	崩上四方	合技	一本背負	体落	弘巻込	内股	引分	引分	引分	合技	押込	一本背負	負傷棄権	大外刈	内股	引分	大外車	足弘	合技						
大将	副将																								
熊谷 喜徳	小西 和夫	○始良	○始良	○始良	○始良	○秋山 源治	○石橋 正記	内海 啓勝	大沢 達夫	石渡 一	石渡 一	児玉	児玉	児玉 一男	石井 幸太郎	神浦 滋太	内海	○内海 昭勝	○内海 昭勝						

平素の勉励と紅白勝負の結果、進級せし者左の如し。
 丙組へ 鈴木福太郎、山口春夫、木下一雄
 乙組へ 茂木茂一、大島仁夫
 甲組へ 奥田直道、孔 仁植
 四級へ 編入 蒲生哲也、西原正典
 三級へ 成宮誠一
 二級へ 篠原恭敬
 一級へ 矢島正嗣、児玉一男、

普通部対青山学院对抗試合
 五月十六日 於 青学道場 青山学院

先鋒 ○前井
 普通部
 村中 孝次 送襟絞 先鋒 ○前井
 岸田 陸夫 内股 前井
 岸田 陸夫 押込 高橋
 岸田 陸夫 絞 渡辺
 滝沢 貞彦 大外返 渡辺
 滝沢 貞彦 引分 河合
 白井 伝仁 弘腰 ○工藤
 梶井 正彦 引分 工藤
 窪田 羊三 大内刈 宇留野
 窪田 三四郎 絞 前田
 太田 三四郎 引分

進級月次試合

五月二十日(水)

副将 高木 慶三郎
 大将 神浦 滋太
 ○羽 鳥 輝久
 ○羽 鳥 輝久
 大外刈 大外刈
 副将 副将
 富田 富田
 九鬼 九鬼
 ○古川 古川

無級の部

1 川田 正司
 引分 金子 達雄
 2 金子 達雄
 引分 関野 貴幸

丙組の部

1 猪原 恒雄
 袈裟固 ○大野 皓章
 2 ○大野 皓章
 合技 山口 春夫
 3 ○大野 皓章
 優勢 武内 安

乙組の部

1 木下一 男
 休落 ○小山 和雄
 2 小山 和雄
 引分 河内 拓郎
 3 河内 拓郎
 合技 ○赤松 栄

甲組の部

1 赤松 栄
 押込 ○孔 仁植

四級の部

1 山田 敬蔵
 引分 白井 伝仁

三級の部

2 白井 伝仁
 引分 谷村 嘉一郎
 3 谷村 嘉一郎
 引分 山崎 門次

1 大角 輝夫
 引分 成宮 誠一

2 成宮 誠一
 合技 ○野原 好三

3 ○野原 好三
 釣込腰 鈴木 康吉

4 野原 好三
 ○佐野 繁

5 佐野 繁
 引分 高木 慶三郎

6 高木 慶三郎
 引分 磯辺 晃平

7 ○磯辺 晃平
 大外返 中沢 信夫

8 磯辺 晃平
 引分 松本 善治郎

9 松本 善治郎
 引分 神浦 滋太

10 △神浦 滋太
 引分 内海 昭勝

11 神浦 滋太
 引分 大角 輝夫

二級の部

1 篠原 恭敬
 大内返 ○笠原 慶太郎

2 ○笠原 慶太郎
 石井 幸太郎

3 笠原 慶太郎
 ○中村 弥二郎

平素の勉勵と月次勝負の結果、進級せし者左の如し。

丙組へ 川田正司、上条 猛、金子達雄、関野貴幸、島

恵一、円谷和夫、

乙組へ 大野皓章、武内 安

甲組へ 赤松 榮
 四級へ 編入 山田敬藏
 三級へ 山崎門次
 二級へ 神浦滋太、内海昭勝

普通部対学習院對抗試合
 六月十一日 於 学習院道場

先鋒 普通部
 村中孝次 引分 先鋒 青池
 ○満谷俊吉 大外刈 松平
 満谷 引分 小畑
 井上豊明 引分 佐久間
 松村泰二 引分 竹屋
 田中常司 引分 白根
 ○滝沢貞彦 大外刈 一柳
 滝沢 引分 植村
 山崎泰 引分 富田
 白井伝仁 引分 小笠原
 岸田睦夫 引分 榑原
 窪田羊三 押込 五十嵐
 橋崎正彦 引分 五十嵐
 高木慶三郎 押込 古川
 太田三四郎 引分 古川

副将 神浦 滋太
 大将 ○羽鳥 輝久
 ○羽鳥 久
 押込 副将 ○四条
 釣込腰 四条
 釣込腰 大将 菊池

無級の部

1 ○伊藤 忠雄 弘腰 永井 忠郎
 2 ○伊藤 藤 背負投 馬越 喜平
 3 伊藤 藤 合技 柴田 豊三
 4 ○柴田 豊三 体落 円谷 和夫

丙組の部
 1 ○柴田 豊三 体落 関野 貴幸
 2 ○柴田 豊三 大外返 川田 正司
 3 柴田 豊三 大外刈 木下 一雄
 4 ○木下 一雄 合技 金子 達雄

乙組の部
 1 ○茂木 茂一 体落返 大島 仁夫
 2 茂木 茂一 足払 大島 仁夫
 3 ○溝口 喜久男 足払 溝口 喜久男
 4 溝口 喜久男 足払 武内 安
 5 大野 皓章 足払 大野 皓章
 6 小野 皓章 優勢 小山 和雄
 絞技 ○川内 拓郎

六月十九日(金)

甲組の部

1 川内拓郎
2 孔仁植

四級の部

1 蒲生哲也
2 篠崎孝之
3 太田三四郎
4 山田敬蔵
5 〇檜崎正彦

編入試験(受験者杉本君)

1 杉本文
2 杉本

三級の部

1 〇山崎門次
2 山崎
3 〇小野信一
4 小野
5 成宮誠一
6 窪田羊三
7 〇野原好三
8 野原
9 〇磯辺晃平

編入試験

1 坂本英男
2 〇坂本

二級の部

1 神浦法太
2 内海昭勝
3 神浦滋太
4 神浦
5 笠原慶太郎

進級・編入

三級へ 坂本英男
二級へ 磯辺晃平、野原好三

普通部対市立一中対抗試合

六月二十日 於 市立一中

普通部 市立一中

先鋒 〇岸田睦夫 大外刈 先鋒 阿部

岸田 巴投 〇田中

満谷俊吉 引分 〇田中

石渡顕一 弘巻 〇岩村

小林重太 弘巻 〇岩村

村中孝次 大外刈 〇岩村

昭和十一年は年初に二・二六事件に続いて満洲事変から日支事変、太平洋戦争へ拡大していく様相を思わせる年であったが、まだ学生柔道にさしたる影響は感じられ

関西、北陸遠征日誌より

田岡 協

山崎 泰	引分	岩村
田中 常司	引分	宮岡
滝沢 貞彦	引分	中山
白井 伝仁	引分	滝沢
窪田 羊三	崩上四方	小林
檜崎 正彦	引分	小林
高木 慶三郎	大外刈	飯田
高木	跳腰	草野
太田 三四郎	送襟絞	草野
副将 神浦 滋太	引分	草野
大将 〇羽 鳥輝久	釣込腰	伊藤
〇羽 鳥	釣込腰	八木
〇羽 鳥	内股	重田
〇羽 鳥	崩横四方	高木
〇羽 鳥	釣込腰	木村
〇羽 鳥	釣込腰	山地

なかったようで、塾柔道部の記録にも関西、北陸遠征と復活第三回早高対予科高等部戦が主たる出来事として残されている。

まず関西、北陸遠征について覚書をひもといてみよう。

○九月一日(火) 東京発

東京駅発午後九時五十分大阪行臨時列車で遠征の途につく。

俣野五段、長沢、古屋、梅沢、田岡四段、近藤、小西、大沢(克)、田中、熊谷、菅井、始良、鳥海、横田三段、桑原、渡会、加藤、三井、渡辺二段、安西、古武、久留、守谷初段の二十三名の学生に中野師範同行。飯塚師範は都合で明日出発、総勢二十五名。

○九月二日(水) 大阪着

大阪駅朝八時到着。山田、小川、福岳、樋口、箱田諸先輩の出迎えをうけ、鐘紡淀川支店の宿泊所へ。工場長は平賀常次郎先輩で歓待され、夜は工場の道場で交歓稽古。

○九月三日(木) 大阪府警對抗戦

天王寺の武徳殿で大阪府警と十八名の勝抜戦。段の上では五段一名、四段七名と以下も府警が圧倒的であった

が吾軍健闘して、副将の僕も二人目府警副将と引分、大将俣野五段も府警榊原五段と引分で勝負なし、夜は堂ビル慶応倶楽部ですぎ焼の御馳走になる。

○九月四日(金) 兵庫県警對抗戦

神戸武徳殿で兵庫県警との對抗戦も五段一名、四段八名、三段以下県警の優勢であったが、副将の僕は三人目西村四段と引分け、大将俣野が副将を投げ県警の大将時実五段と引分けて昨日同様勝負なしとなったが相当手強い相手であった。

神戸慶応倶楽部歓迎会後大阪発九時五十五分の夜行で金沢へ出発。

○九月五日(土) 金沢

朝七時金沢着、あさい屋旅館へ。

朝飯後加賀百万石城下見物。昼飯は守谷商會の出張所で御馳走になる。

三時より武徳殿で交歓稽古。警察と中学生で對抗試合には相手不足であった。夜は三田会に招待される。

○九月六日(日) 新潟

早朝六時過の汽車で新潟へ向い三時過着、菊池屋旅館へ、武徳殿で交歓稽古を行った。

夜は三田会と新潟有段者会合同の歓迎会をイタリヤ軒

で賑やかに過ごす。又中野先生の令兄が新潟有段者会におられて大変御世話になった。

○九月七日(月) 帰京

長岡行を中止して半日早く帰京することになり一時過ぎ出発、夜八時半東京帰着。

以上の関西、北陸遠征は各地の先輩や柔道関係者の歓待を受け、試合の成績もまずまずで、成功であったと言えよう。

この遠征に参加した二十五名中、四十年後の今日、既になき人も多い。回顧すれば寂然新たなるものがある。

進級月次試合

十月一日

丙組の部

1 渡辺敏弘 引分 ○猪原恒雄

乙組の部

1 猪原恒雄 引分 茂木茂一

2 ○茂木茂一 内股 原

3 茂木 引分 大野皓章

4 大野皓章 釣込足 ○大島仁夫

5 大島仁夫 引分 城後重明

甲組の部

二級の部		三級の部										四級の部						
2	1	7	6	5	4	3	2	1	7	6	5	4	3	2	1	3	2	1
磯内	海昭	小野	高木	鈴木	山崎	榎崎	榎崎	榎崎	太田	白井	西原	中西	中野	田中	赤松	溝口	孔仁	城後
晃平	昭勝	信一	慶三郎	康吉	門次				三四郎	伝仁	正典	善正	常司	栄	喜久男	仁植	重明	
引分	体落	合技	引分	内股	引分	引分	引分	引分	背負返	引分	内股	合技	足弘	引分	引分	釣込足	引分	引分
○篠原恭敬	○磯内晃平	○窪田洋三	○小野信一	○高木慶三郎	○鈴木康吉	○山崎門次	○石川礼夫	○成宮誠一	○谷村嘉一郎	○太田三四郎	○白井伝仁	○西原正典	○滝沢貞彦	○中野善正	○田中常司	○赤松栄	○溝口喜久男	○孔仁植

先鋒
本塾

○島田房藏(2)	渡辺昌一(2)	飯田泰司(2)	古武	古武	安西	久留	渡辺	内丸	鈴木	大沢
大外刈	引分	引分	釣込腰	合技	引分	引分	引分	引分	押込	合技
市井(2)	田辺(2)	麻生	麻生	菊地	川野	安田	鈴木	麻生	○麻生	○麻生
		(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)		

十月三十一日
農大

本塾予科高等部対全農大対抗試合

進級せし者左の如し。

3	4	甲組へ	四級へ	三級へ	一級へ
○篠原恭敬	篠原	大島仁夫	赤松 栄	太田三四郎、谷村嘉一郎	中村弥一郎
合技	一本背負				
石井幸太郎	○中村弥二郎				

招待試合(下段本塾)

白井	引分	大角輝夫
山崎高	引分	山崎門次
太田三四郎	引分	佐野繁
高木慶三郎	三分	中沢信夫
窪田羊三	足弘	〇城後正明
副将 橋崎正彦	大外刈	〇城後
大将 〇羽鳥輝久	大内刈	城後
〇羽鳥	足弘	磯辺晃平
〇羽鳥	釣込腰	内海昭勝
〇羽鳥	不詳	児玉一男
羽鳥	引分	湯地貞俊
初段の部	大外刈	〇古武
1 麻生(農大)	大外刈	〇渡辺徹史
2 梅森(立正大)	小内刈	〇児玉一男
3 吉次(立正大)	引分	近藤肇
4 今村	引分	
二段の部	引分	飯田泰司
1 藤本(水産大)	押込	石橋正記
2 〇鳥津(学習院)	背負投	笹川俊夫
3 〇竹内	引分	加藤幹夫
4 長浦(日体大)	引分	

復活第三回

早稻田高等学院
慶応予科高等部
對抗柔道戦

十一月十四日 於 講道館

審判 七段橋本正二郎

先鋒

本塾

早稻田

古武寿男(初)	大外返	先鋒	〇加藤明次郎(初)
安西正憲(初)	引分		加藤
和田徳藏(2)	引分		張銀准(初)
和川義雄(2)	引分		西沢正泰(初)
山間猶興(2)	大外刈		〇池端健雄
〇佐藤倭史(2)	背負投		池端
佐藤	引分		西村宣彦(2)
〇加藤幹夫(2)	小外刈		高井春馬(2)
加藤	左釣込腰		〇金寛河(2)
〇渡辺昌一(2)	崩上四方		金
渡辺	引分		上田匡介(2)
池田亀夫(2)	引分		岡田弘明(2)
薄田一郎(2)	引分		沢田長志郎(2)
石橋正記(2)	引分		岡部豊次(2)
桑原正(2)	引分		小林久男(2)
木下三八郎(2)	引分		岩崎多円(2)
			佐々木藤綱(2)

大將	侯野	清(5)	引分	大將	尾崎	稻穂(4)
副將	田岡	協(4)	引分	副將	青山	順(4)
	鳥海	又六郎(3)	引分		小野寺	
	横田	作弥(3)	背負投		○小野寺	英長(4)
	始良	治(3)	引分		小田	正俊(3)
	○始良	源治(3)	大外巻		酒井	菊二(2)
					木内	重四郎(2)

「復活第三回早慶戦を省みて」

田岡、記

十一月十四日(土) 水道橋講道館

昨年三名を残され惨敗した塾軍は、一年雌伏研鑽必勝の意気込で早軍と相対したが、次の如き試合経過で引分に終わった。

先鋒、中堅陣優位の早に対し、上位陣優勢の塾軍で互角の戦前評であったが、塾中堅陣健闘して寧ろ一名勝越して上位陣につないできた。

すなわち佐藤二段はマイペースの左背負で相手を眩惑して一本勝ち、続く加藤二段も日頃の軽い身ごなしで小外刈を決め、渡辺二段は高松伝統の粘りつくような上四方固めでよく試合を対にした。

以上三君は卒業後間もなく日支事変、太平洋戦争の犠

牲となって今は亡い。

五将始良三段は相変らず気合充分の大外巻で勝ち二人目早軍中の寝技の達人小田三段と引分けてその責を果した。

塾四将横田三段破れていよいよ上位陣は対の試合運びとなったが、塾三将鳥海三段引分の後、副將田岡四段技有をとりに、優勢乍ら早副將青山四段懸命の引分作戦にっいに逃げ切られる。

大將同士の決戦となったが、塾大將侯野五段も早大將尾崎四段必死の抵抗で勝を制することが出来ず、遂に引分けに終わった。

中堅陣の奮闘で充分勝機がありながら遂に引分けに終って復活戦は二分、一敗で昭和十五年の全早慶戦まで中断されることになる。

進級月次試合

十一月二十七日(金)

丙組の部

1 田口徳宏	小外刈	○金子達雄
2 金子	引分	那須恭一

乙組の部

1 郡須恭一	足払	○猪原恒雄
--------	----	-------

二級の部										四級の部				甲組の部				
4	3	2	1	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	4	3	2	1	2
磯	金	中	中	滝	岸	篠	杉	満	満	満	満	井	井	柴	大	大	大	猪
辺	沢	沢	沢	沢	田	崎	本	谷	谷	谷	谷	上	上	田	島	島	島	原
晃	壯	信	信	貞	陸	孝	正				俊	豊						
平	二	夫	夫	彦	夫	行	之				吉	明						
弘腰返	引分	合技	合技	背負投	引分	引分	小外刈	押込	体落	大外刈	足私	引分	引分	引分	引分	抱落	大外刈	足私
○篠原恭敬	磯辺晃平	○金沢壯二	内海昭勝	○中野善正	滝沢貞彦	岸田陸夫	○篠崎孝行	○杉本正之	田中常司	山崎高	赤松榮	満谷俊吉	赤松榮	奥田直道	柴田豊三	高木文夫	溝口喜久男	○大島仁夫

普通部、北関東遠征に全勝

(昭一二、二、九、普通部ニュースより)

十二月二十四日、上野駅に集合した普通部柔道部選手十一名は、監督大沢氏及び先輩、今川、古屋両氏の同行を仰ぎ、中野師範以下多数の見送りを得て、戦勝を期して上野から出発。

思えば此の遠征を目標にして、去年はより一層の精進を重ね、對抗試合等にも管て負をとらぬ程の好成績を収めたのであった、その実力を發揮すべく一同勇躍遠征の壮途に上った。

○二十四日、対宇都宮中学

第一の予定地、宇都宮に到着し、宇中に着いたのは午後の二時頃で、残雪の厳寒を物ともせず、全力をつくして戦い勝、選手及び概要左の如し。

大将 羽鳥、副将 太田、檜崎、高木、窪田、山崎、滝沢、外山、満谷、田中

先鋒田中惜敗するや、満谷立って好く戦い、抜いて次の初段と引分け、窪田、高木が続敗するや、檜崎奮然立って絞めて勝ち宇中の中堅初段と好戦して敗る。続いて太田は振わず、大将羽鳥は奮戦後五人をほうむり快勝す。

○二十五日、対桐生中学

昨日の疲労回復せずと云えども豪将羽鳥の獅子奮迅の力戦宜しきを得て県優勝校桐中を破ったのは我が柔道部の榮譽を益々鞏固にするものである。我軍のメンバーは
大将 羽鳥、副将 山崎、榎崎、太田、高木、窪田、満谷、外山、滝沢、田中

敵の先鋒意外に強く数人投げられたが高木力闘して分け、榎崎一人投げて有利になったが次に惜敗、続いて山崎若輩ながら堂々と戦って敗れ遂に羽鳥悲壮な決心で戦い、全く驚嘆に価すべき技を發揮、敵の大将三段以下二段初段七人を物の美事に投げ痛快極り無かった。

○二十六日、対高崎商業

遠征最後の日、全選手疲れも見せず皆、技を思ひ存分振う。

大将 羽鳥、副将 榎崎、高木、太田、窪田、滝沢、山崎、外山、田中、満谷、松村

先鋒松村始めて出場善戦して敗れ、満谷よく攻めたが引分け、山崎活躍して一人抜き次ぎに引分け、滝沢、窪田、惜敗、太田は惜しくも引分け、高木投げられるや榎崎美事な腰投で逆襲次の者も苦もなく投げ敵の三将を圧して引き分け、羽鳥、敵の副将、大将を足払で倒し勝利

を得た。